

# 「誇りと喜びの持てる学校を目指す」

(幼児児童生徒と教職員、保護者が誇りと喜びの持てる学校)

～明るく・元気に・根気よく、そして夢を持って～

こころ豊かに明るく、からだ元気に健やかに  
勉学・学習にはコツコツと根気よく取り組む  
そして

大きな夢をいただき目標をえがく子どもたちに育てる



平成23年度は悲しみのスタートとなりました。

この度の東日本大震災によりお亡くなりになられたみなさまには慎んで哀悼の意を表します。また甚大なる被害をこうむられ今も苦しい生活を余儀なくされているみなさまには心よりお見舞い申し上げます。東日本の聴覚障がい教育学校における人的な被害は幸いにもなかったと聞いております。しかし子どもたちも含めて聴覚障がいの方々が避難生活などで不便をされているのではないかと、情報保障されていないのではないかと案じております。遠い地からではあります但し応援いたしております。

さて平成23年度当初の本校の生徒数は166名です。大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科創設者の加藤亨博士が、道修町にある小西薬劑学校において、16名の聴覚障がい生徒と3名の教員で授業を始めたのが大正15年5月2日であります。その後、昭和8年に大阪府に移管され、今年で創立85年になります。昭和59年に高等部が独立し、幼稚部・小学部・中学部の聴覚支援学校になりました。大阪府教育委員会の推進する地域支援事業の一環として、大阪府健康福祉部在宅子育て支援事業「びよんびよん教室」と連携を取りながらすすめている乳児の早期教育“生野びよんびよん教室”（平成4年度）や、地域の学級で学ぶ聴覚障がい児童・生徒のための通級指導教室（平成16年度）を実施し、大阪の聴覚支援教育のセンター校としての役割を充実させています。

本校は、創立当初より、医学理論に基づく聴覚活用と、「口話」を中心とした発声発語指導は高く評価され、加藤亨医学博士が、国産小型補聴器第1号「リッカフォン」の発明者でもあったことから、関西に於ける聴覚障がいの医学、療育・教育、補聴器メーカーの連携の核となり、今日に至っています。

私の学校経営のモットーは「明るく・元気に・根気よく、そして夢を持って」です。聴覚活用を進めコミュニケーション力と言語力を育成し学力向上、体力づくりを図り、そしてこころの豊かな子どもに育てたいという願いを込めています。

心・技・体の調和のとれた全人格面にわたる教育を目指します。

昨年度より“校長日誌”を掲載しております。是非ご覧ください。